

日本女性放射線腫瘍医の会（JAWRO）企画講演  
医療のさらなる躍進にむけて ～女性の活躍への期待～ 座長報告

伊勢赤十字病院放射線治療科 伊井憲子

学会 2 日目 10 月 12 日の第 4 会場にて、日本医師会共催の JAWRO 企画講演会が開催され、今回はお二人の女性リーダーに講演をして頂きました。この度 JAWRO 会長の内田先生とともに座長を務めさせて頂きましたので、講演会の報告をさせていただきます。

最初は聖路加国際病院ブレストセンターのセンター長の山内英子先生から、「次世代へつなぐ医療のビジョン –女性のレジリエンスをいかして–」のご講演でした。レジリエンスというのは、「回復力」や「復元力」とも訳され、心理学の分野で最近よく聞かれる言葉です。それぞれの患者さんには、それぞれのストーリーがあります。山内先生の病院では、そのストーリーを聴きだすことにより、がんと診断されたこと、治療に伴う副作用、その後の病状等で悲しみ苦しむ時に、それぞれに合ったサポート（リング）で患者さんに寄り添われてみえます。その中で、それぞれの患者さんの中にレジリエンスが育って行くことに山内先生ご自身が感動を覚えるとのことでした。ご講演の最後は、会場全体がその感動を共有でき、非常に心温まる話を聴くことが出来ました。

次に京都大学医学研究科腎臓内科学の柳田素子教授から、「急性腎障害（AKI）から慢性腎臓病（CKD）への移行メカニズム」のご講演でした。私はこれまで、「腎は一度悪くなってしまうと治らない」という印象を強く持っていました。AKI から CKD へ移行するメカニズムは不明な点が多く残されていますが、柳田先生のグループは様々な切口からこのメカニズムに対しての基礎研究をされてきました。その研究結果は腎の専門ではない私でも「なるほど」と、おもしろさを感じるものでした。現在、基礎研究もされつつ、その経験を臨床に活かされ、「腎臓病を治る病気にする」ことを目指されてみえます。さらには OncoNephrology ユニットまで立ち上げられました。腎の専門家が「がん領域」に携わって頂けるのは、がん治療に関わる者として心強く感じました。

お二人の講師の先生方の専門分野は異なりますが、それぞれのビジョンを明確にされて、周囲の理解と協調を得ながら、さらに発展されている印象を受けました。現状にたどり着くまでに並々ならぬ努力と困難があったと思われませんが、そういった事を感じさせずに、さらりとこなされている格好良さがありました。このような素晴らしい講演会の座長を任命して頂きありがとうございました。大会長の西村先生、JAWRO 会長の内田先生にこの場をお借りして御礼申し上げます。最後にお二人の先生方のますますのご活躍をお祈りしております。